

水

～限りある大切な資源～

私たちの暮らしに欠かせない水。蛇口をひねればいつでも必要なときに必要なだけ飲み水や料理に水を使うことができます。しかし、昨年は県内の水事情が悪化し、一時は県内ダムの貯水率が50%を割り込んだ時期もありました。その後、まとまった雨が降り水事情が好転しましたが、依然としてダムの貯水率は平年値を下回り、水の確保は十分とはいえません。水道水が安定して供給できるように、私たち一人ひとりが「限りある大切な資源」である水を大切に、節水について心がけていく必要があります。

工 沖縄の水事情

水不足の状態が続くと、以前は水の供給（給水）を制限する断水が実施され、断水前になると生活で使用する水を確保し、水をムダなく使う工夫をしたり、水の大切さを実感したものです。

その後、水資源開発が進み沖縄本島では、平成6年（1994年）度以降、15年にわたり渇水による給水制限（断水）は実施されておられません。しかし、沖縄の水事情は天候により大きく左右されます。これからも水を大切に作る習慣を身につけ節水を心がけましょう！

S63年度以降の渇水による給水制限（断水）

年度	日数
S63年度	36日
H元年度	26日
H2年度	—
H3年度	64日
H4年度	—
H5年度	31日

※H6年4月～H22年1月末現在まで渇水による給水制限は実施されておられません。

工 沖縄本島の主な水源

- 国管理ダム
- 県管理ダム
- 県企業局管理ダム



渇水による給水制限（断水）を解消するため、国や県は水を確保するダムを中心に水資源開発を行ってきました。平成9年には、海の水から塩分を取り除いて水道水を作る県企業局の海水淡水化施設も完成し、渇水による給水制限のない安定した状況が続いています。

沖縄本島は、水源の約7割をダムの水に頼っています。沖縄本島には10のダムがありますが、そのうち7つは国が管理しており、1つは県、2つは県企業局が管理しています。また、海水淡水化施設では1日最大40,000m³（沖縄本島で使用する1日当たりの使用水量の約10%に相当）の水をまかなうことができます。

水源別取水量割合

(平成20年度)

- ダム
- 地下水
- 河川
- 海淡水

